

資料

周作人・松枝茂夫往来書簡 補遺

小川利康編

はじめに

著者は周作人と松枝茂夫の間で交わされた往復書簡を整理校訂して、「周作人・松枝茂夫往来書簡 戦前篇 (一)」、「周作人・松枝茂夫往来書簡 戦前篇 (二)」、「周作人・松枝茂夫往来書簡 戦前篇 (三)」、「周作人・松枝茂夫往来書簡 戦後篇」を『文化論集』(三〇〇三三三号、早稲田商学同攻会二〇〇七、二〇〇八年)に発表した。これと並行して中国国内では周作人遺族が独自に整理、校訂し、周美和・周吉仲整理「周作人と松枝茂夫通信」(一九三六—一九四二)、「周作人と松枝茂夫通信」(一九四三—一九五六)、「周作人と松枝茂夫通信」(一九五七—一九六四)が『中国現代文学研究叢刊』(二〇〇七年第四—六期、中国現代文学館)に掲載された。著者も同誌に「周作人と松枝茂夫通信的説明」(『中国現代文学研究叢刊』二〇〇七年第四期)を寄稿して書簡集刊行の意義につ

いて述べている。このほか周作人書簡については影印本で『周作人致松枝茂夫手札』（小川利康、止庵編、廣西師範大学出版社二〇一三年）を刊行し、排印本では書き起こせなかった細部に至るまで確認できるようになった。趙京華（中国社会科学院文学研究所研究員）は上記資料公開を踏まえて「動蕩時代の生活史と心靈記録——読周作人致松枝茂夫信」（『中国現代文学研究叢刊』二〇〇八年第四期）を発表し、著者も「周作人と江戸川柳——『近世庶民文化』掲載の佚文をめぐって」（『野草』九八号、二〇一六年十月）などを発表している⁽¹⁾。

以上で基本的な整理校訂作業は完結したと考えていたが、その後も北京の周作人遺族宅での遺品整理が進む過程で松枝茂夫書簡が新たに見つかった。その際に日本人作家や文化人から周作人に寄せられた書簡も大量に見えられたことは既に日本の新聞各紙でも報道された通りである。そのなかには安藤更生（一九〇〇年～一九七〇年、早稲田大学教授・美術史）が周作人に宛てた書簡二十三通も含まれていた。この書簡は、早稲田大学会津八一記念博物館所蔵の安藤更生宛周作人書簡（四十七通）とともに、徳泉さち（同博物館助手）の手で「周作人安藤更生往来書簡」として整理校訂され、今春より順次発表される予定である。今回新発見も含む松枝茂夫書簡（日本語）は、趙京華が整理翻訳し、「松枝茂夫致周作人函」（一九三六—一九六五）（『中国現代文学研究叢刊』二〇一四年第十一期）と題して、同氏による解題「關於松枝茂夫致周作人函」とともに発表されているが、日本語原文そのものは今回初めて公開するものである。

本稿は新発見分の松枝茂夫書簡及び入力漏れの書簡を追加分として校訂整理して掲載するとともに、既刊の書簡集の失誤を掲げ、訂正を行うものである。なお、本資料を必要とする読者の便宜を考慮し、以下の注釈部分は中国語で記述する。

《周作人·松枝茂夫往来書簡》往刊订误及有关说明

著者至今已在本刊上发表《周作人·松枝茂夫往来書簡 戰前篇（一）》、《周作人·松枝茂夫往来書簡 戰前篇（二）》、《周作人·松枝茂夫往来書簡 戰前篇（三）》、《周作人·松枝茂夫往来書簡 戰後篇》（《文化論集》（三〇）三三三号、早稻田商学同攻会二〇〇七、二〇〇八年）。但后来周作人家属还发现松枝茂夫先生的书简以及来自日本文化名人的书简。这在日本媒体新闻上已经有详细报道。在中国方面，赵京华已经整理并翻译所有的松枝书简，发表《松枝茂夫致周作人函（一九三六一—一九六五）》（《中国现代文学研究丛刊》二〇一四年第十一期）以及《关于松枝茂夫致周作人函》（同上）。

但具体整理过程当中，由于著者疏忽所致发生了几个问题。希望在此重新梳理一下纠正错误。首先与赵京华所整理的中文版与拙编《周作人·松枝茂夫往来書簡》四篇进行比对。结果著者发现有五封信需要补录，当中四封是新发现的。还有一封是因为著者整理过程当中的疏忽漏录的。在此一并刊登补录。

另外与赵京华所整理的中文版、影印本《周作人致松枝茂夫手札》与拙编之间存在年月日不一致的部分。借此机会做补充调查确定写信日期。

《往来书简》的总数，据我重查的结果如下：

松枝茂夫书信	民国时期	人民共和国时期	共计
周作人书信	二十四封	十七封	四十一封
	四十四封	九十四封	一百三十八封
		总共	一百七十九封

具体比対結果（表格）附于篇末。书信里包括明信片、电报、推荐信之类，都分别算在总数内。

一、书筒补遗

【补遗1】 19360802M（松枝茂夫↓周作人）

拝啓

先便にて一寸申上げて置きました『北京の菓子』⁽³⁾が出来上がりましたので、取敢えず十冊だけ別便にて御送り申し上げました。小さい本とはかね／＼聴かされては居りましたもの、いよ／＼實物を見て、成程これではあんまり小さすぎると苦笑いたしました。ほんとにお笑草で御座いました。本年内ぐらゐに必ず相当な形にまとめ上げて出したいものと望んで居ります。

精いっぱいによつたつもりで居りましたが、出来上つたものを見ますと、型にはまった譯文でまことに申しわけなく存じます。それにまたとんだ見当ちがひな誤譯も多々あることと怕れます。どうか、この次改めますから、忌憚なく御教示いたゞければ、大へん有難いとぞんじます。なほ、この本、もつとお入用で御座いましたら、いくらでも送らせますから、どうかご遠慮なく申しつけて下さい。おねがひいたします。

酷暑の折柄、御自愛專一のり上げます。



『北京の菓子』
（山本書店一九三六年八月）

八月二日 松枝茂夫拜

周作人先生

* 这封是周作人家属新发现的一封信。已收入于赵京华所译《松枝茂夫致周作人函一九三六一一九六五》第六封（一九三六年八月）八二页

【补遗2】 19400204M（松枝茂夫↓周作人）

拜啓 数日前當地の新聞に御近況が報ぜられて居りました。随分と御多忙の御事と御察申上ます。ただ御元氣で何よりと御喜び申上げる次第で御座います。先には小生の幼稚極る質疑に對し、つづいて二通御懇切なる御教示を戴きまして洵に難有く感謝の言葉も御座いませぬ。

其後『葉堂語録』の方はどうやら譯了いたしました處、本屋の方でアレだけでは一冊の本として頁數が少し足りぬから、もう百枚か二百枚位、外のものを譯し加へて欲しいと申して寄越しました。そこで早速その希望にまかせて御近著の中から割合わかり易さうなもの及びに拙譯のあるものを勝手に十五本篇選出して附録する事にいたしました。そして巻頭に「結縁豆」を置き、いつぞや先生に命名して頂きました通りに總名を『結縁豆』としては如何かと考へて居ります。選出した篇は左の通りで御座います。

結縁豆、賣糖、撒豆、縁日、老年、模糊、婦人之笑、談



『結縁豆』
（實業之日本社一九四四年四月）

儒家、關於朱舜水、禹跡寺、燕京歲時記、鴉片事略、日本雜事詩、日本的落語、日本之再認識
 就きましては又々甚だ恐れ入りますが、別項の條々何卒御教示下さいませ様、御願申し上げます。今度の譯文には古文の引用も悉く口語譯にいたして見ました。

『中国文学』この三月限り廢刊に決定せし由、多少の感慨無きを得ません。自發的とは申せ、已を得ざる處置として敢て之を決意した竹内君の考へに小生は寧ろ今更ながら大いに敬服した次第です。尤も東京方面の全人間では廢刊を最も憤激するのは松枝だらうと噂して居るそうです。心から愧しい次第です。

寒中御身、御大切に祈上げます。勿々 松枝茂夫

周作人先生

二月四日

* 这封是周作人家属新发现的一封。已收入于赵京华所译《松枝茂夫致周作人函一九三六一一九六五》第九封（一九四〇年二月）八五頁

【補遺3】 19440900M（松枝茂夫↓周作人）

拝啓

大へん長い間、御無沙汰致しました。その後お変りは御座いませんか。御伺ひ申し上げます。過日は御新著『書房一角』頂戴仕りまことに有難く存じます。御禮を申上げるのが大変おくれてしまつて申譯なく存じます。小生は去る六月から表記のところに轉居しました。家族は全部郷里（妻の）に歸（いはゆる疎開）して小生獨り自炊生活を営んで居ります。久しぶりに家庭の煩瑣から開放マされてのう〜と日々を送つてをります。不自由だらうと同情してくれる人もあり

ますけれども實は本人甚だ快適で満足してゐる次第です。炊事や洗濯も多少慣れてみれば、何程の事もありません。併し偶々、婦人雜誌などを手にする事があれば、何といふ事なしに、まづ後の方の料理記事を読むやうになり、我乍らをかきな事と思ひます。近所の奥さんから松枝さんの仙人料理と笑はれますが結構瘦せることもなく、よくしたものと思つてをります。家族のゐる處は博多から西への汽車で二時間半を要します。當初の計画では、汽車通勤をするつもりでありましたが、イザとなつては到底やれるものではなく、時々家族を見に歸るのさへ切符の制限の為、中々困難です。それは兎もあれ現在の生活を小生自身十分の満足を以て愉快に過してをります。尤も他から見たら或は野蠻な生活に見えるかも知れませんが。

只最近では本屋に行つても、これと云つた目欲しい本が更になく、古本屋も古本よりは新本が多く並び、又貸本屋に轉業した者も尠からず、買書の楽しみがなくなつた事は最も物足りぬ一事です。

先日雜誌『文藝』から原稿を索められ、『留學的回憶』と『関于日本画家』の二篇が前に譯してありましたのを幸ひ、その俣それを送りました。⁽⁴⁾ 出刊されたらお送りします。又例によつて誤譯の多い事と恐れてをります。尚同誌は従前改造社から發行されてゐましたが、今度新たに河出書房に移つたさうです。

『書房一角』を拜讀して（『春波橋』の條）前に一寸疑問にしてゐた事を思い出しましたから序でに記します。「禹跡寺」に引かれてあります寶慶『會稽續志』の春波橋も禹跡寺前のそれではなくて、稽山門外のそれを指してゐるのではないかと



周作人著『書房一角』
（新民印書館一九四四年）

云ふ事です⁽⁵⁾。多分小生のよみ違ひかと思ひますが、前に會稽縣資料を漁つてゐた時、一寸そんな疑念を挟みました。実はよくも知らぬ事を何卒お笑ひ下さい。

御健康を祈ります

松枝茂夫

周作人先生

先日友人小野忍君⁽⁶⁾ 先生を訪ねべくして訪ねる事が出来ず、甚だ残念、宜しく申上げてくれとの事で御座いました

*这是编者整理过程当中疏忽漏录的一封信。已收入于赵京华所译《松枝茂夫致周作人函一九三六一—一九六五》第二三封（一九四四年九月）九六页

*信上没写日期，但信封上盖有周家的收信日期的邮戳，日期为一九四四年九月二五日。

【補遺4】 19550930M（松枝茂夫↓周作人）

拝啓

大変ご無沙汰いたしました。

幾度もお手紙をいたゞき乍ら、ご返事も差上げず、甚だ申訳なく存じます。

お送り下さった書籍雑誌類次々に受取りました。有難う存じます。魯迅『小説史略』初版本をお送り下さいました由ですが、これだけはどういうものか着きません。紛失したとすれバ惜しいことです。高玉宝、三里湾等大変興

味をもつてよみました。胡風批判論等いたゞき有難うございます。こちらでも、随分興味を持って注意している人が多々ございます。紅樓夢批判の方は、まだ纏まったものは出ていないのでしょうか。その方も是非みたいと思っています。

九月十四日に、岡田氏『末摘花注釈』二冊、朝日写真グラフ（琉球、中国）の外に、宮尾氏の江戸好色小咄集が手元にありましたのを添えてお送りしました。

本日（九月卅日）小包二個、柳先生あてに送りました。写真でみる新日本、歌舞妓マヌの鑑賞、アサヒ家庭の医学四冊、忠臣蔵、以上七冊。

なお、假名手本忠臣蔵がもしお入用でしたら、岩波文庫本が手元にありますから、お送りします。落語本は近日中にお送りします。

講談社の落語全集は数月前に新版を出し、忽ち賣切れたようので、中々見つかりませんが、一、二冊手に入れられそうですから。

さて同封した写真は、友人駒田信二氏（藤塚氏女婿、小説家、都立大学講師）所蔵の写真から複製したものです。私もこの春からエロシエンコの童話集をある本屋からたのまれて編纂しており、それのせるつもりです。⁽⁷⁾

ところで、おたずねしたいのは、

①場所はどこですか。



北京大学で。前列左から周作人、魯迅、エロシエンコ、京城大学の藤塚教授(1922年)。

高杉一郎『夜明け前の歌』（岩波書店1982年）

②後列の三人は、右から、徐祖正、兪平伯、丸山幸三郎（幸一郎の誤り？丸山昏迷？）の三氏ではないかと推量しているのですが、ちがいますでしょうか。

③いつごろ？

この寫眞、お手元になれば、差上げてよろしうございます。

次に、日本文学について、中国でどういうものが紹介され、又その翻訳が計画されているのか大体のことをお教え願いたく存じます。

『訳文』にのつた樋口一葉の二作の訳はまことに立派なもので感服にたえませんでした。徐汲平とは徐祖正先生のことでしょうか。『箱根風雲録』⁽⁸⁾は、私は日本文ではよんだことなく、蕭々氏の中国訳本だけよみましたが、これも見事なものでした。蕭々とはどなたのことか知りたくてたまりません。もしもご都合がわるくなかつたらお教えねがいます。同書のカバーに周豊一先生訳、『反抗着暴風雨』の広告が出ておりますが、これは出版されたのでしょうか。⁽⁹⁾尤炳圻さんはこの頃どうしておられるでしょう。文藝報に最近書いておられた由、友人にききましたが、まだ私は見ていません。徳水の「静かなる山々」の訳は出ていますか。訳者は誰？

一、日本文学の中国訳本をお送り下さる様、お願いたします。（「山彦学校」と訳文一月号はすでに持っています。それ以外は何でも）

二、児童文學讀物の本を少し集めてお送り願います。

三、文学古籍刊行社

✓ 西遊補

✓ 聊齋志異

古今小説

世説新語

✓ 脂硯齋重評石頭記

四、作家出版社

✓ 「文学遺産」増刊一輯

封神演義

水滸伝的演変 巖敦易著

以上、お願い申し上げます。

北京の空は藍色に澄みきっていることと存じます。御健康をいのります。

松枝茂夫

九月卅日

周作人先生

* 这封是周作人家属新发现的一封。已收入于赵京华所译《松枝茂夫致周作人函一九三六一—一九六五》第三五封（一九五七年九月）一〇九页。此信日期应为一九五五年九月，详见补注4。

【補遺 5】 19580325M (松枝茂夫↓周作人)

拜啓

いつも思いながら、御無沙汰してしまつて、本當におわびの申上げようもございません。もう半年以上もおたよりを怠っているかと思ひます。

『魯迅全集』、『人民画報』、その他いろいろ送つていたゞきながら、その受取の返事さえ差上げませんでした、まことに失礼いたしました。

先日テラポールとドミアンと各二十錠入りのものをお送りしました。この状とどちらが早く着くでしょうか。薬屋にきましたら、テラポールは二十年ほど前までは神薬のようにいわれたものだそうですが、戦後になって、あとから優れた薬が出て来て、今ではよほど時代おくれになつてゐるそうです。尿道に結石が出来る等の副作用があるとかで、今日ではあまり使用されず、今日のところ、ドミアンというのが一番優秀だそうです。この方は、そういう副作用が全然ないということです。二十錠入りで、テラポールは80円、ドミアンは300円です。御試用の上、どちらがよいかお知らせ下されば、さつそく何とかして送ります。このたびは大へん遅くなつて申訳ございませんでした。

前に御注文になつた書籍で、まだ送つていないのが、四、五冊はあるように思ひます。

一、永井荷風（筑摩書房、日本文学アルバム）

これはまだ出版されていません。恐らくもう出版されることはないと思われまふ。

二、井上翠『日華字典』（文求堂）

文求堂は御存じと思いませんが廃業しました。田中慶太郎氏の歿後、一年ばかりあとに乾郎君、ついで亡くなり、本郷の店には今では「いちれつ會本部」とかいった看板がかかっています。天理教か何かの関係だと思えますが、前を通ることに寂しい気持ちになります。それでこの本も今では古本屋で捜さなければならなくなりました。近い中にさがします。

三、「炭焼長者」、「藁しへの王子」、「上の爺さまと下の爺さま」（中央公論社、子供文庫）

本屋にきいたがわかりません。中央公論社の子供文庫にまちがいないでしょうか。おたずねいたします。これは去年の暮の御注文なのに、今頃おたずねというのも甚だ申訳ない次第です。

岡田甫氏からは周先生によるしくとのことでした。又、『庶民文化研究』の最近号に総目録が出ていますから、今までお送りした雑誌に欠号があれば、お知らせ次第、お送りすることでした。どうぞお知らせ願います。

私は現在は『紅樓夢』の改譯や、児童用の『水滸傳』の外に、平凡社の中国古典文学全集のために、「三言二拍抄」（十篇）と『中国随筆選』などの仕事を持っていますが、どれもはかどらず弱っております。中国には「陶菴夢憶」や「瑯嬛文集」のよい版本を出版する計畫はまだないのででしょうか。末筆ながらお身体お大事になさいます様いのっております。

周作人先生

松枝茂夫

*这封是周作人家属新发现的一封。已收入于赵京华所译《松枝茂夫致周作人函一九三六一—一九六五》第三六封（一九五八年三月）一一〇页

二, 补注

借此机会希望商榷与赵京华所译《松枝茂夫致周作人函一九三六一—一九六五》（下简称·赵译）之间的异同之处。据赵京华的说明他手里收到的共有四十封（里面包括新中国成立后而具体写作时间不详的明信片）。但此次重查一次原始材料还是有四十一封（里面包括几张明信片）。溯其原因只能认为手里保存的原始材料有参差了。他指出：‘有两封内容上与电子版的重复（一封为1956年6月5日所写·另一封为1956年12月中的，信函内容虽相同但新发现的后面附有购书单）’。但编者手里的这两封内容是截然不同，读者可在《周作人·松枝茂夫往来书简 戦後篇》核对无误。另外还有几点似乎可商榷。编者则冒昧地提出个人看法。

·补注1 (19400520M)

赵译第十封（一九四〇年五月）翻译文似乎漏译后一段。这部分主要向周作人提出《陶庵梦忆》的问题。周作人对此在一九四〇年五月三十一日的书简上回答问题。

·补注2 (19431207M)

赵译第十八封排入一九四二年十二月。但周作人一九四三年十月二十二日的信上允诺为题签，松枝对此表示感谢

的…原文曰、先日は早速乍らわざわざ速達便を以て御返事の御手紙をいたゞき、又題簽を賜りましたこと厚く御礼申上げます。按時間順序、此信应在一九四三年十二月写的。

・补注3 (19440627M)

赵译第四十封排在最后，认为、邮寄时间不明。诚然邮戳日期不清，但总可以认、六月二十七日、明信片末尾又有、六月廿六日、的字样。并且寄往北京的地址上明写着中华民国，可确定为民国时期的。还有，松枝在信中谈自己在《文学研究》上发表关于《儿女英雄传》。这一篇刊登在『文学研究』三四輯（九州大学法文学部一九四四年、后收入于《中国文学の楽しみ》岩波書店一九九八年刊）。根据文章的发表年月来推算，应该在一九四四年六月写的。这张明信片为日本战败前松枝发的最后一次通信。

・补注4 (19550930M)

赵译第三十五封排入一九五七年九月。但信上写、胡風批判論等いたゞき有難うございませう。这是对19550721Z并对19550823Z的回信。周作人信上写道、胡風集团在現今是一重要問題，有關資料五冊，特以奉贈（19550721Z）、胡風集團在現今成爲嚴重問題，曾將資料數種寄奉（19550823Z）。还有周作人在19550823Z上托松枝先生买、岡田甫著、『川柳末摘花詳釋』、朝日寫真ブック、系列的、寫真



19440627M (明信片)

でみる新日本、歌舞妓の鑑賞^レ等書籍。松枝先生在此信19550930M通知周作人寄去^レ岡田氏『末摘花注釈』二冊、朝日寫真グラフ（琉球、中国）^レ。如此看来，这封信应该是19550823Z以后发的，应该排在一九五五年九月。

・补注5（19560410M）

赵译没有收入。原始材料似乎有遗漏。

・补注6（19590407M）

赵译第三十八封排入一九五八年九月。但据周作人在19590313Z上，关于石川啄木诗《呼子与口笛》的^レものとなき^レ词义提出问题，松枝对此解释词义。按信上的内容来判断应为一九五九年写的。具体日期根据信封上的邮戳认读四月七日寄的。还有一个旁证，即是周作人在19590222Z上谈起翻译西鹤之事，松枝也对此表示关心提到有关西鹤的参考书。

・补注7（19560823Z）

《周作人致松枝茂夫手札》排入一九五五年。周作人在此提到^レ胡风集团^レ是与前信（19550721Z）有联系。还有信上请松枝购买的《岡田甫著『川柳末摘花詳釋』、《朝日寫真ブック》都在一九五五年出的书。此信应该纠正为一九五五年八月二十三日的。

・补注8 (19641215乙)

《周作人致松枝茂夫手札》把寄呈松枝茂夫的推荐郑子瑜的信函分开排在一九六四年十二月八日，算是另一封。但拙编《周作人·松枝茂夫往来书简 戦後篇》里与一九六四年十二月八日的书简编在一起，合起来算是一封信。结果周作人的书简总数导致不一致。但实际上内容没有差异的。

- 注(1) 在中国发表过《周作人与江戸川柳——作为反礼教主义的猥褻论》(《鲁迅研究月刊》二〇一六年三期)
- (2) 《作家·周作人へ、文豪ら手紙 島崎藤村や谷崎潤一郎 資料1500点発見》(《朝日新聞》二〇一五年三月二十五日朝刊)、《谷崎ら文豪中国へ手紙 日本に造詣深い周作人宛て》(《読売新聞》二〇一五年三月二十五日朝刊) 等
- (3) 《北京の菓子》(一九三六年八月山本書店) 为第一本松枝茂夫翻译周作人散文的单行本
- (4) 松枝茂夫译《周作人随筆二題》(《文藝》一号，河出書房一九四四年十一月) 内含《日本留学の思ひ出》、《日本の画家に關して》两篇。
- (5) 周作人对此在一九四四年十一月十一日的信上有回应。
- (6) 小野忍(一九〇六—一九八〇) 当时住在北京。曾在满铁调查部、民族研究所工作过，主要从事研究中国回教。此间参加中国文学研究会。日本战败后，历任东京大学教授、和光大学教授。
- (7) 《周作人·松枝茂夫往来书简 戦後編》注50参照。如前所注释，爱罗先珂的童话集没有出版，但据饭仓照平(东京都立大学名誉教授)，这张照片后来收入于高杉一郎《夜あけ前の歌——盲目詩人エロシエンコの生涯》(岩波書店一九八二年刊，三四二页)。这张照片是在《鲁迅日记》、《周作人日记》的一九二三年四月十五日上有记录。那天，竹田复先生(当时作为日本文部省派遣的留学生在北京留学)或许担任摄影，没拍在照片里面。日译本鲁迅全集(学习研究社)第十九卷收入同样的合影(据《鲁迅日记》一九二三年一月五日摄影)，那张里有竹田复先生，却没有拍进周作人与爱罗先珂。这两张其实都在藤家邻(当时是第八旧制高等学校教授，后任京城帝国教授：二八七九—一九四八)手里保存着。松枝茂夫通过藤家的女婿驹田信二(一九一四—一九九四)了解到这些，请人复制照片来的。
- (8) 《箱根風雲録》是一九五二年在日本上映的一部电影。原作小说系高仓辉(teru)(一九九一—一九八六)的《ハコネ用水の話》(潮流社一九五〇年)。
- (9) 周作人之长子、周丰一(一九二二年—一九九七年)的译作详见于《周作人·松枝茂夫往来书简 戦後編》注49

年份	松枝茂夫书信	备注	合计	周作人书信	备注	合计
				19590530Z		
				19590722Z		
				19590804Z		
				19590811Z		
				19590829Z		
				19591002Z		
				19591009Z		
				19591105Z		
				19591115Z		
1960年						5
				19600210Z		
				19600723Z		
				19601107Z		
				19601119Z		
				19601214Z		
1961年						4
				19610209Z		
				19610303Z		
				19610328Z		
				19611012Z		
1962年						1
				19620422Z		
1964年						4
				19640925Z		
				19641028Z		
				19641208Z	补注 8：原不算是一封	
				19641215Z		
1965年			1			
	19650104M					
总计			41			138
						179

年份	松枝茂夫书信	备注	合计	周作人书信	备注	合计
	19570320M			19570114Z		
	19570527M			19570119Z		
				19570203Z		
				19570207Z		
				19570301Z		
				19570311Z		
				19570325Z		
				19570421Z		
				19570803Z		
				19570918Z		
				19571010Z	明信片	
				19571124Z		
				19571202Z	明信片	
				19571218Z		
1958年			2			9
	19580325M	补遗 5		19580224Z		
	19580511M			19580315Z		
				19580409Z		
				19580520Z		
				19580604Z		
				19580628Z		
				19580814Z		
				19580914Z		
				19581119Z		
1959年			1			18
	19590407M	补注 6		19590121Z		
				19590131Z		
				19590222Z		
				19590302Z		
				19590304Z		
				19590313Z		
				19590410Z		
				19590430Z		
				19590524Z		

年份	松枝茂夫书信	备注	合计	周作人书信	备注	合计
				19550823Z	参照补注 7	
				19550906Z		
				19551113Z		
				19551124Z	明信片	
				19551213Z	明信片	
				19551230Z		
1956年			6			24
	19560114M			19560121Z		
	19560216M			19560202Z		
	19560323M			19560227Z		
	19560410M	补注 5		19560322Z		
	19560605M			19560330Z	明信片	
	19561206M			19560407Z		
				19560409Z		
				19560415Z		
				19560423Z		
				19560506Z		
				19560509Z	明信片	
				19560515Z		
				19560527Z		
				19560615Z		
				19560701Z	明信片	
				19560707Z		
				19560818Z		
				19560823Z	补注 7 : 应纠正为1955年	
				19560905Z		
				19560911Z	明信片	
				19561024Z		
				19561115Z		
				19561119Z		
				19561221Z		
				19561229Z		
1957年			3			15
	19570127M			19570110Z		

年份	松枝茂夫书信	备注	合计	周作人书信	备注	合计
	19400716M			19400729Z		
	19400816M			19400915Z		
	19400924M			19401001Z		
				19401029Z		
				19401121Z		
				19401205Z		
1942年			2			3
	19420121M			19420201Z		
	19421119M			19421212Z		
				19421226Z		
1943年			4			8
				19430217Z		
				19430224Z		
	19430316M			19430325Z	电报	
				19430326Z		
	19430418M			19430430Z		
				19430430Z	讣闻	
	19431014M			19431022Z		
	19431207M	补注 2		19431218Z		
1944年			3			3
	19440324M			19440306Z		
	19440627M	补注 3		19440528Z		
	19440900M	补遗 3		19441111Z		
1954年						2
				19541018Z		
				19541219Z		
1955年			4			12
	19550105M			19550204Z		
	19550316M			19550215Z		
	19550930M	补遗 4 / 补注 4		19550227Z		
	19551205M			19550411Z		
				19550421Z		
				19550721Z		

周作人·松枝茂夫往来书简年表

年份	松枝茂夫书信	备注	合计	周作人书信	备注	合计
1936年			6			4
	19360309M			19360315Z		
	19360321M			19360407Z		
	19360416M			19360420Z		
	19360503M			19360718Z		
	19360730M					
	19360802M	補遺 1				
1937年			1			3
	19371105M			19371122Z		
				19371207Z		
				19371213Z		
1938年						5
				19380711Z		
				19380827Z		
				19380831Z		
				19381126Z		
				19381223Z		
1939年						5
				19390106Z		
				19390304Z		
				19390308Z		
				19390605Z		
				19390717Z		
1940年			8			13
	19400101M			19400107Z		
	19400204M	補遺 2		19400222Z		
				19400324Z		
				19400423Z		
	19400520M	補注 1		19400531Z		
	19400616M			19400630Z		
	19400713M			19400720Z		